

Team チームの動き

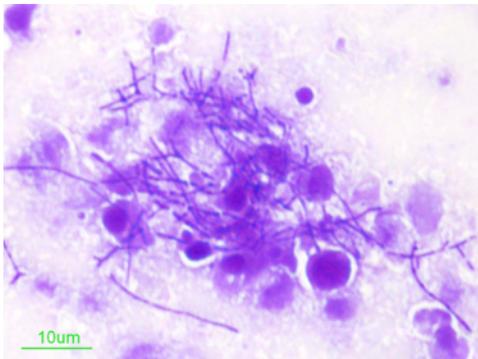
アユ・ブリで魚病が発生しました

危機管理チーム

昨年の10月に河川のアユにおいてエドワジエラ症が初めて確認されました。感染域の拡大は確認されていませんが、河川でのアユの死亡には、今後注意する必要があります。また、11月から12月に養殖場のブリにおいてノカルジア症が多発しました。県外からの感染魚の導入が原因と考えられますので、種苗導入においては病歴を確認することが重要です。

漁場監視チームでは10月からノリ広域モニタリング事業の調査を開始しました。今年度は広島県海域でのノリの色落ちをより深く理解するために、これまでの大型珪藻と栄養塩等のモニタリングに加え、葉体の色彩の調査も行なっています。

秋～冬の貝毒調査では、原因となる貝毒プランクトンは検出されませんでした。



ノカルジア症原因菌（鰓の患部に多数の菌が見られる）

放流オニオコゼは小魚を食べていた！

地付き魚資源増殖チーム

放流サイズ（35mm）のオニオコゼの小型稚魚は見つけることが困難なため、野外で何を食べているのかは長い間謎でした。今年度、放流追跡調査を実施し、再捕された放流稚魚の胃内容を調べてみたところ、オニオコゼ稚魚とほぼ同じ大きさのハゼ科やベラ科魚類の稚魚を主食としていることが判明しました。

放流2週間後の調査で再捕されたオニオコゼ稚魚19尾のうち、9尾（42%）からこのような摂餌が確認され、放流魚が着実に天然環境に馴致しつつあることがわかりました。



捕獲されたオニオコゼ稚魚（上・中）と胃から出てきたハゼ（下）

カサゴの種苗生産スタート！

地付き魚生産チーム

地付き魚生産チームでは現在、カサゴの種苗生産技術開発に取り組んでいます。カサゴは卵胎生魚で冬から春にかけて産仔するため、当センターでは雌の成熟状況を確認しながら適宜海面生簀より取り上げて産仔させます。現在は、得られた仔魚を飼育し、カサゴ仔魚期特有の斃死が発生する成長段階の絞込みを行っています。また、低塩分耐性試験を実施し、大量減耗に対する希釈海水処理の有効性を検討しています。



カサゴ仔魚（全長45mm）

江田島湾の底泥を採集しています

かき養殖適正化研究チーム

当チームでは、江田島湾のかき筏直下の海底泥を採取して実

験を行っています。海底の泥は、通常エクマンバージ型採泥器などの専用器具を使って海上から採取できますが、かき漁場の海底は通常と違って、多くのかき殻が堆積しているため海上からの採取は極めて困難です。実際にはダイバーの力を借りなければなりません。写真は直径12cmのアクリルパイプに採取した海底泥のサンプルです。

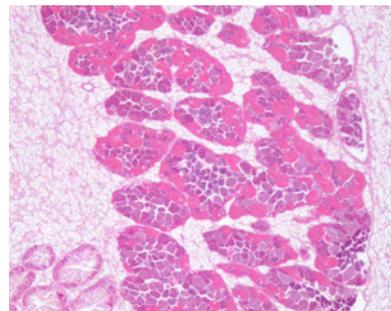


採取した江田島湾の海底泥

コケゴロモの匂はいつなのか？

フランスかき類養殖研究チーム

コケゴロモの養殖試験は一段落し、現在は、組織切片から性比・雌雄同体の確認や生殖腺成熟度合や身入り状況の経月変化等の確認を行っています。写真は、4月のサンプルから見つかった雌雄同体個体の生殖腺です。鮮やかなピンクに染まっている



コケゴロモ雌雄同体個体の生殖腺

のが卵、紫に見えるのが精子です。また、現在までのところ、産卵期は5～8月で、11月頃から身入りが良くなっていくことがわかりました。コケゴロモも、マガキ同様、冬が匂の食べ物のようなようです。

空から観察！広島湾の「かき母貝」配置

かき採苗研究チーム

トピックス



空から見た峠島周辺漁場（中央）と防災ヘリコプター（左下）

当チームでは、広島湾で安定的にかき採苗を行なうためにどうしたらよいか検討しています。この中で、かき採苗シーズンに産卵母貝となるかき筏が広島湾のどこにあり、幼生がどこに移動するのかが重要であると考えています。平成19年7月に、かき産卵期の筏配置状況を把握するため、県防災ヘリコプター「メイプル」による広島湾北部海域と江田島湾のかき筏分布調査を行いました。写真左下は「メイプル」、中央は峠島、奥に見えるのは江田島です。（関連記事：p.3-4）

「かきの日イベント」で一粒かきPR！

一粒かき養殖研究チーム

11月23日の勤労感謝の日が、かきの日に制定されていることをご存知でしょうか。「栄養豊富な牡蠣を食べて、日頃の勤労の疲れを癒してもらおう」と全国漁業協同組合連合会が制定したのですが、広島県でも広島県立広島産業会館において第3回かきの日イベントが開催され、当センターからは本チームが出展し一粒かきの展示を行いました。

かき小町、縞かき、コケゴロモ等の一粒かき実物を展示したところ入場者の関心は高く、多くの人に当センターの開発した一粒かきの養殖技術を説明することができました。



かきの日イベントで一粒かきを紹介する様子

水技センター発表会を開催しました

平成20年2月1日（金）に、当センターの平成19年度研究発表会を開催しました。研究成果を3題、「話題提供」と銘打って、研究が現在進行中の新しい課題を2題、ご紹介しました。

当日は、漁業者や水産関係団体の皆様をはじめ、市や町、一般企業の皆様など、幅広い方々にご来場いただきました。

発表者をはじめ私たち研究員は、このような会で様々な方から研究についての感想や質問をいただくことで、たくさんの方の刺激を与えることができました。

- 1 分野横断研究「広島湾流域圏環境再生研究（太田川から広島湾までの自然再生を目指して）」の成果について
横内昭一
- 2 広島湾におけるかき養殖用種苗の安定確保を目指して
平田 靖
- 3 アユ冷水病の実用的ワクチン開発の現状について
永井崇裕
- 4 【話題提供】オニオコゼ放流効果の向上に向けて
相田 聡
- 5 【話題提供】フランスがき類による新たな広島ブランドの開発に向けて
田村義信

技術支援制度が新しくなります

【平成20年4月1日スタート】

○『技術的課題解決支援事業』（略称：ギカジ）を新設します。

個人や企業等からの個別の技術相談などに対し、総合技術研究所が調査、測定、分析、評価などを行い、問題解決に向けて検討、技術指導、検討結果のレポートを作成します【有料】。より幅広いお客様からの技術支援ニーズに対応できるようになります。

○設備利用及び依頼試験の項目と料金について見直しを行います。

○研修等の人材育成支援制度を再構築します。

※詳しい内容については、広島県ホームページの「広島県立総合技術研究所トップページ」をご覧ください。当センター技術支援部までお気軽にご相談ください。

【直通：0823-52-2173】